

夏秋なすにおける土着天敵を利用した IPM (総合的病害虫・雑草管理) による生産技術の展示

要約

夏秋なすにおいて、非選択性殺虫剤の不使用、天敵温存植物の栽植、雑草の放任等に取り組むことにより、多様な土着天敵が発生し、害虫の密度が抑制された。その結果、生育期の殺虫剤の散布回数を 9 回に抑えた上で、慣行栽培同等である 10a 当たり約 6.9t の収量が得られた。

○ 展示のねらい

夏秋なすにおいて土着天敵を活用した病害虫防除体系をモデル的に展示することにより、その普及定着を促進する。展示内容は以下のとおり。

(1) 殺虫剤の使用制限

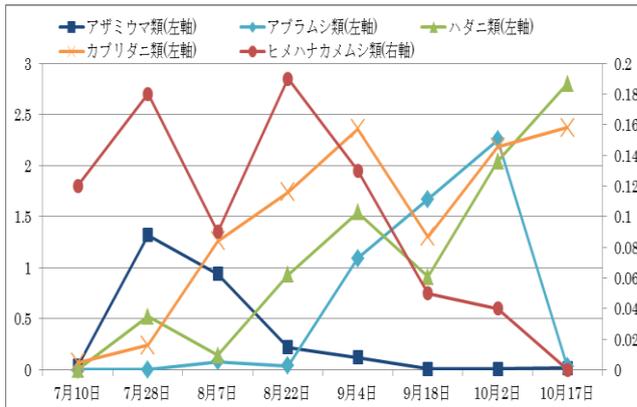
①非選択性殺虫剤の不使用 ②天敵に影響の小さい選択性殺虫剤を使用

(2) 天敵温存植物の栽植

①フレンチマリーゴールド ②ソルゴー ③オクラ ④ブルーサルビア ⑤マルチ大麦

(3) 雑草は作業管理の妨げにならない限りは放任

○ 主な成果



なす 1 葉当たりの害虫・天敵発生状況

なす株元のマリーゴールド

- (1) 多様な土着天敵が発生し、害虫の密度が抑制されたため、害虫被害はほとんど問題とならなかったが、調査区域外ではカメムシが発生し、果実被害が見られた。
- (2) 殺虫剤の使用回数は、育苗期 2 回、生育期 9 回、オクラ 1 回であった。
- (3) 収量は 6,887kg/10a (前年比 94.5%)、A 品率は 55.3% (前年比 95.9%) であった。
- (4) 除草剤の使用回数は 1 回であった。ほ場周辺の雑草は放任としたため、労力が軽減された。

○ 今後の方向性

夏秋なす生産における労力及びコスト低減技術並びに薬剤抵抗性害虫の効果的な防除技術として、本技術の普及を図る。普及に当たっては、生産者の防除に対する考え方を大きく変える必要があるため、まずは、導入を希望する生産者を重点的に指導し、成功事例を増やしたい。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315